



「浦和のさかえに 歴史をほこる」開校155周年 YEAR を迎えて

大いちょう

令和 7年 6月 2日
さいたま市立高砂小学校

高砂小学校だより 令和7年度 No. 3

048 (829) 2737

ウェルビーイングの実現に向けて

校長 永 山 誉

爽やかな5月から梅雨の季節を迎えようとしています。新年度がスタートして2カ月、1学期も折り返し地点を迎えました。子どもたちの活動も益々活発になってきているところです。5月の講話朝会において、開校155周年YEARを迎え、自分たちができることを考えようと投げかけましたが、早速様々なアイデアを出しながら具体的な検討が始まりました。自分たちの幸せだけでなく、みんなの幸せのために何ができるのか、この周年行事を通して、子どもたちにとって、生きた学びの場となるようにしていきたいと考えています。

ところで、幸せと言えば、近年ウェルビーイングの実現について語られることが多くなっています。ウェルビーイングとは、身体的・精神的・社会的に良い状態であることをいい、ウェルビーイングの実現とは、多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなることであり、教育を通じて日本社会に根差したウェルビーイングの向上を図っていくことが求められています。このことは、本校の学校教育目標にある「個の確立と公の発展を目指す子の育成」に通じるものでもあります。しかし、ウェルビーイングの国際的な比較調査においては、自尊感情や自己効力感が高いことが人生の幸福をもたらすとの考え方が強調されていますが、同調査では、日本を含むアジアの文化圏の子どもや成人のウェルビーイングは低いとの傾向が報告されています。さて、子どもたちの自尊感情はどうでしょうか。自尊感情、つまり自尊心については、アメリカの著述家のジェリー・ミンチントンは「うまくいっている人の考え方」(ディスカヴァー携書)の中で、「自尊心とは何か。簡単にいうと、それは自分を好きになり、他人と同じように自分も素晴らしい人生を創造するに値する人間だと信じる気持ちのことである。」といっています。また、自尊心は、人間関係、自信の度合い、職業の選択、幸福、心の平和、成功等人生のほとんどすべての局面に大きな影響を与えらることもいっています。では、どうすれば自尊心は育むことができるのでしょうか。それは、自分に対する考え方を修正することが大切であり、自分の人生は自分で創造できると確信し、生まれつき持っている自分の価値に目を向けることであるということです。その具体的な手段として「自分を好きになる」ために、「自分に寛大になる」「自分を大切にすること」「自分を受け入れる」「自分の価値を信じる」「自分の人生を生きる」といったことを具体的に示すとともに、「よりよい考え方を選ぶ」ために、「視点を変えて考えてみる」「自分と出会う 人と出会う」「ポジティブに考える」「ありのままの自分を見る」「自分の手で人生を創り出す」といったことを具体的に示しています。ここに示されている提案をどう実行に移していくか、開校155周年YEARが生きた学びの場となるためにも、子どもたちには本書で示されている手段の中から具体的に話をし、ウェルビーイングの実現に向けて取り組んでいきたいと考えています。

6月は、いじめの認知件数が増加してくる時期ともいわれていることから、さいたま市では、全市的に6月を「いじめ撲滅強化月間」とし、各校においてそれぞれの学校の実情に応じた取組を実施しています。本校では、令和7年度「さいたま市立高砂小学校いじめ防止基本方針」(全文はホームページで公開中)に基づき、年間を通じていじめ撲滅に向けて取り組んでいるところですが、特に6月は次のような取組を実施する予定です。(1)「ストップいじめ!」啓発用ポスターを活用した、学級スローガンづくり (2)児童会による、いじめ防止を目指したキャンペーンの展開 (3)校長によるいじめ撲滅に関する講話(6月の講話朝会で実施) (4)「児童生徒の心のサポート 手引き いじめに係る対応」を活用した、いじめの未然防止に向けた学級担任等による指導 (5)「簡易アンケート」等の実施による対応